

佐賀駅周辺整備事業について

佐賀市 佐賀駅周辺整備構想推進室

1. 背景

佐賀市では、「中心市街地活性化基本計画」に基づき、街なか4核構想エリアを中心とした街なか再生や、シンボルロードである中央大通りの再生など、中心市街地の賑わい創出に向けた取組を進めてきた。この中心市街地の北部エリアにはJR佐賀駅が位置しており、駅利用者などの駅周辺における人の流れを中心市街地活性化エリア内に波及させていくことが求められていた(図-1)。



図-1 街の南北軸イメージ

また、令和6年度の国民スポーツ大会(現:国民体育大会)・全国障害者スポーツ大会の開催を控え、佐賀駅の北側に位置するSAGAサンライズパークには、佐賀県が8,400人規模のアリーナを整備されており、開業後の交流人口の拡大が期待されている。

佐賀市では、このアリーナの整備や、令和4年度の西九州新幹線開業を見据えて、まちの玄関口である佐賀駅周辺エリアの魅力向上を図るとともに、街の南北軸(SAGAサンライズパーク周辺エリア~佐賀駅周辺エリア~街なか4核構想エリア・城内)を強化し、中心市街地全体の賑わい創出につなげることをめざして、平成30年度に「佐賀駅周辺整備基本計画」を策定し、佐賀駅前広場や佐賀駅とSAGAサンライズパークを結ぶ市道三溝線の再整備などの事業を計画した。

2. 佐賀駅周辺整備事業の方向性

佐賀駅周辺整備事業は、佐賀駅前広場や市道三溝線、佐賀駅周辺道路の整備などの公共インフラ整備と佐賀駅の佐賀城口(南口)に近接する駐車場敷地(一部市有地)への民間開発誘導の二つの取組に大別される(図-2)。

(1) 佐賀駅前広場の整備

昭和51年の佐賀駅移転・高架化に伴って整備



図-2 佐賀駅周辺図

された佐賀駅サンライズ口（北口）、佐賀城口（南口）の駅前広場は、モータリゼーションが進む社会背景の中で一般車・タクシーの乗降所や駐車場、タクシープールといった自動車のための機能を中心に配置した広場として整備された。

そのため、これまで佐賀駅の乗降客約 25,000 人/日や、隣接する佐賀駅バスセンターの利用者が駅前で滞留する空間はなかった。これらの人たちに駅前を通過するだけでなく、滞在時間を過ごせる空間を提供することで滞留を促すとともに、イベント等により賑わいの創出につながる駅前広場を整備することにし、佐賀城口（南口）の交通機能（自動車整理場、タクシープール）の規模を見直し・縮小することで、交流機能を有する広場を新設する計画を立てた。

(2) 市道三溝線の整備

市道三溝線は、佐賀駅サンライズ口（北口）から北に伸び、国道 264 号に至る延長約 900 m、幅員 20 m の 4 車線道路であり、市内北部エリアから佐賀駅へのアクセス道路となっている。

また、今後は佐賀駅と SAGA サンライズパークを結ぶ主要ルートとしての役割を担うことになる。これから歩行者の通行量増加が見込まれることを受け、平成 30 年度に交通社会実験を実施

し、道路の現行幅員（20 m）を再配分し、車線数の減少（4 車線→2 車線）、歩行者の主要動線となる東側歩道の拡幅、自転車レーンの新設などを行う方針を決定した。

この道路改良と併せて、電線地中化（共同溝）、歩道の高質化を実施し、歩行者動線の拡充や居心地よく歩きたくなる歩道空間の創出を図ることとした（写真-1、図-3）。



写真-1 市道三溝線の交通社会実験の状況

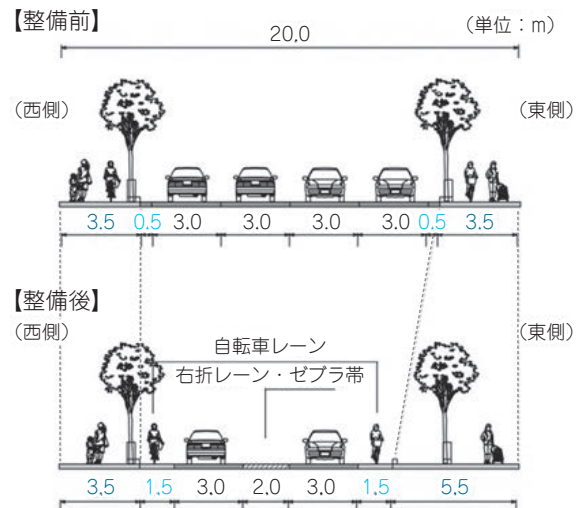


図-3 市道三溝線の幅員再配分

(3) 民間開発の誘導

平成 30 年 3 月に佐賀駅の佐賀城口（南口）に隣接するスーパーマーケットが閉店したことに伴い、店舗跡地および隣接する店舗駐車場跡地の土地利用が街づくりにおける課題となっていた。店舗跡地については、令和 2 年 6 月に民間開発事業者による複合型商業施設「コムボックス佐賀駅前」

が開業したが、店舗駐車場跡地（約1ha）は、具体的な開発計画が決定しておらず、現在は時間貸し駐車場として利用されている。

この駐車場敷地（約1ha）の活用によってエリアの活性化を促すために、佐賀市が敷地の一部（約3分の1）を取得し、他の土地所有者と共同で民間開発の誘導に取り組んでいくこととしている（写真-2）。



写真-2 民間開発誘導の予定地

新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前には訪日外国人宿泊客数が大きく増加していたことや、アリーナの整備計画が進んでいること、令和元年度に実施したサウンディング型市場調査の結果などを踏まえ、当該地にホテルを核とした民間開発の誘導をめざすこととした。

3. 佐賀駅周辺整備事業の現状

(1) 佐賀駅前広場の整備

まず、令和2年9月に佐賀駅サンライズ口（北口）の広場整備工事に着手し、令和3年5月に工事完了・供用開始した。その後、佐賀駅佐賀城口（南口）の広場の工事に着工、令和4年4月に交通広場の供用開始、同年11月に交流広場の工事が完了し、駅前広場のグランドオープンを迎えた。

今後は居心地良く時間を過ごせる空間、賑わいを生み出す空間としていくこと、さらにはその賑わいを周辺地域へ波及させていくことをめざして、民間のノウハウを活用して運営するため指定

管理者制度を導入することとしている。駅前広場の整備を終え、これからは周辺道路の高質化など、駅前広場を中心とした佐賀駅周辺の空間整備に取り組んでいく予定である（写真-3、4）。



写真-3 整備後の佐賀駅前広場（佐賀城口）全景



写真-4 整備後の佐賀駅前広場（佐賀城口）の様子

(2) 市道三溝線の整備

佐賀駅から北側のアパホテル佐賀駅前中央までの区間（約260m）については、すでに電線の地中化をしていた区間だったため、道路改良（幅員再配分）後、先行して歩道の高質化に着手でき、令和3年度末には歩道高質化の工事が終了した（写真-5）。

以北の区間については、令和4年度から電線地中化のための共同溝を埋設する工事に着手している。

今後、増加が見込まれる歩行者が快適に楽しく歩ける歩道空間にしていくために、ベンチの設置などのほか、沿線にポケットパークや交流施設を整備し、休憩スペースやトイレ機能を確保していくこととしている。



写真－5 整備後の市道三溝線（東側歩道）

(3) 民間開発の誘導

ホテルを核とする民間開発の誘導に向けて、令和元年度にサウンディング型市場調査を実施し、以降も開発事業者との意見交換などを継続して行っているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う宿泊需要の減退や資材・人件費の上昇に伴う建設費の高騰によって、開発事業者が新規開発案件に慎重になっており、開発事業者の公募を開始する時期が見通せない状況が続いている。

この開発予定地は街の玄関口である佐賀駅周辺の重要な土地であり、いったん開発されれば、今後数十年間にわたって、このエリアの在り様が固定されることになるため慎重に進める必要があるものの、開発による地域の活性化や経済効果の波及を早期に実現する必要もあり、公募を開始する時期をしっかりと見極めることが求められる。

4. 今後の展開

(1) 佐賀駅前広場の活用と周辺道路等の整備

駅前広場については、すでに供用を開始し、指定管理開始に向けて準備を進めているところであり、今後は近接する開発予定地と佐賀駅佐賀城口（南口）の交流広場を結ぶ市道駅前中央3号線や、開発予定地に隣接する市道駅前中央4号線など、周辺道路の高質化を進めていく。

また、交流広場の南端から中心市街地に伸びる県道佐賀停車場線の駅前交番西交差点までの約200m区間は、現在、道路幅員28mの4車線道

路となっているが、所管する佐賀県において、社会実験の結果を踏まえ、2車線化によって生み出される幅員を再配分し、東側歩道を約11mに拡幅することが計画されている（写真－6）。



写真－6 県道佐賀停車場線の社会実験

さらに、この街路整備に併せて、沿線に位置する駅前まちかど広場も再整備される予定である。

これによって、佐賀駅前交流広場～県道佐賀停車場線（歩道）～駅前まちかど広場が一体的に街のエントランスとして整備されることになり、駅前には広大な交流スペースが生まれることになる。今後は管理者が異なる交流スペースをどのように一体的に活用して駅前の賑わいを創出していくかが課題となる。

(2) 市道三溝線の整備、歩道空間・ポケットパークの活用

令和6年度には、SAGA サンライズパークを主会場として国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が開催され、全国から多くの人の来場が見込まれるが、佐賀駅からSAGA サンライズパークまでの主要アクセスルートとなる市道三溝線は、道路改良、電線の地中化、歩道の高質化の3つの工事を進めているため、工事が長期間にわたる。

そのため、歩行者の主要動線となる東側歩道の高質化工事を大会までに完了し、大会後に西側歩道の電線地中化、高質化工事を行う予定である。

また、沿線に整備予定のポケットパークや交流施設については大会までに整備を終え、ポケットパークへのキッチンカー等の出店など、来場者の

もてなしに活用するための準備を進めていく。その一環として、整備中のアリーナをホームアリーナとするバレーボール、バスケットボールのプロスポーツチームのホーム開幕戦に合わせ、実証イベント「SAGA サンライズパークストリートフェスタ」を令和4年10月の4日間に開催した(写真-7, 8)。

そのほか、歩道へのマルシェ等の出店によって通りの賑わいを創出するため、歩行者利便増進道路(ほこみち)の制度を活用する予定である。

5. おわりに

佐賀駅周辺では駅前広場や市道三溝線の整備、佐賀県による県道佐賀停車場線の整備などの公共インフラ整備を中心に取組を進めている。

今後は整備目的である駅前の賑わい創出のため、駅前広場(交流広場)の活用・運営における指定管理者による民間ノウハウの活用や市道三溝線の歩道活用における歩行者利便増進道路制度の活用、市道三溝線沿線のポケットパーク・交流施設の活用における地元地域、民間事業者との連携など、官民が連携して公共スペースを活用していくことが重要であり、持続性が確保された活用・運用の体制の確立に向けて関係各所との合意形成を図っていかねばならない。また、開発予定



写真-7 実証イベント(歩道のマルシェ)



写真-8 実証イベント(ポケットパーク予定地へのキッチンカー出店)

地の民間開発との相乗効果によって佐賀駅周辺エリアの魅力を高め、街の玄関口にふさわしいエリアに育てていきたい。